

コンミュンについて

四七 ヴラヂカフカーズ鉄道プロレタリア駅

の労働者、職工、職員、共産党細胞へ

一九二一年一月二十日

親愛な同志諸君！

諸君から派遣されたラヴリク、マリコフ、ブィコフの同志たちをつうじて、諸君がモスクワ市の勤労者へ贈物を送るのを企画されたことを知って、たいへんよろこんでいます。諸君の総会の指令どおり、諸君の代表から、発送してくださった貨物、——小麦 2002 プード、大麦 1869 プード 29 フント、小麦粉 35 プード——の送り状第 243 号、同じく、諸君が土曜労働として塩の調達をおこなったこと、諸君の土曜労働一般、諸君の文化啓蒙活動にかんする、詳しい報告書を受け取りました。

貨物（諸君から派遣された同志たちに手落ちがなかったにもかかわらず途中で手まどりましたが）を食糧人民委員部に届けるようにという命令は出しておりますから、諸君から送られた食糧は全部、モスクワ市の労働者に渡されるでしょう。

文化啓蒙の仕事と学校の仕事にいつそう注意をはらうよう、おすすめします。諸君のあいだに生じる困難はすべて、諸君が一致して力を合わせれば取りのぞくことができるものと信じます。

とくに私の興味をひいているのは、諸君のはじめた共産主義的農業です。今日共和国の当面している主要な課題の一つは、農業の発展と高揚です。諸君が今年じゅうに、2200 デシャチーナの耕作と 25 デシャチーナの野菜栽培に成功するだろうという知らせは、私をよろこばせました。諸君は、諸君の農業が農業科学の教えるように正しく組織されるよう気をくばるべきであり、そのためには、知識のある農業技師を諸君の事業へ引きいれたらいいでしょう。

とくにお願いします、コンミュンでの活動は、周囲の農民を援助し、かつ彼らと最良の関係をたもつように組織してください。これなしには、また実務的、实际的、経済的な成功なしには、私はコンミュンをあまり信用できないし、コンミュンというものがすこしばかり心配にさえなります。

皆さんに同志的挨拶をおくります。

ヴェ・ウリヤーンナ (レーニン)

自分で直接にお会いできず、同志ゴルブノーフに応接を頼まなければならなかったことを非常に残念に思います⁽¹⁾。

(1) 本文中「とくにお願いします」以下は、レーニンの手で書かれている。

第 45 卷 P39~40 『プロレタリア駅の労働者、職工、職員、共産党細胞へ』

1921 年 1 月 20 日

1927 年 1 月 21 日、新聞『モーロト』（ロストフーナードヌー）1641 号にはじめて発表
レーニンが補筆し署名した、タイプした写しによって印刷